

報告

岩手県のラグビー(2)
現在の釜石のラグビー状況
—アンケート調査結果より—

Concerning Rugby Football in Iwate Prefecture (II)
The Situation of Rugby Football in Kamaishi City:
The Result of the Investigation of Questionnaires

原 英子*
Eiko HARA

Keywords: *Rugby Football School, Kamaishi City, Japan the investigation of questionnaires*
ラグビースクール、釜石市、アンケート調査結果

1. はじめに

1978 年から 1984 年にかけて、新日鉄釜石ラグビー部がラグビー日本一 7 連覇を果たした。このことにより、岩手県釜石市は全国的にラグビーで有名な町となった。

それから三十年の歳月が流れた。今の釜石の子どもたちはラグビーというスポーツをどのように感じているのだろうか。またラグビーはどのように世代間で継承されているのであろうか。こうしたことを調べるために、(a)釜石にあるラグビースクールの子どもたちと(b)子どもをラグビースクールに通わせている親、および(c)市内の K 中学校でラグビーを経験した中学生を対象に、それぞれアンケート調査をおこない、回答してもらった。これらの調査結果について整理したものを報告する。

2. 調査対象について

アンケート対象者は釜石市にある(a)ラグビースクールに所属する園児・児童・生徒、(b)子どもをラグビースクールに通わせている親、(c)臨時にできるラグビー部に入ってラグビーを経験した中学生である。それぞれ対象者に合わせて設問したものもあるため、3 種類の調査項目を用意した。

(a)と(b)について、ラグビースクールに通う子どもと親へのアンケート調査はそれぞれ別におこなったので、回答した親の子

どもが必ず回答したわけではない。同様に、ある子どもの親が必ず回答しているわけではない。

また、(c)の臨時にできるラグビー部に入ってラグビーを経験した中学生について少し説明しておこう。岩手県では、小学生を主体としたラグビースクールが 1969 年から作られてきた。もっともスクールが多かった 2005 年には 10 のラグビースクールが存在したが、その後減少し、2012 年現在は 7 校となっている [原 2014]。ところが、ラグビースクールは小学生が主体で、中学生になると、ラグビー部をもつ中学校は数が少なくなる。中学生でラグビーを続けるには、ラグビー部をもつ中学校にはいるか、岩手県の中学生選抜チームに選ばれてそこでラグビーを続けるか、試合がある時期などに、臨時にラグビー部を創部する中学校があるので、そこでラグビーをするのか、ということになる。アンケート調査は、臨時にラグビーをする部員を募る K 中学校でおこなったため、普段は他のスポーツをしている生徒たちを想定した質問項目となっている。

3. アンケート項目と結果

3-1 ラグビースクールの子どもたちの結果

調査に協力してもらったのは、釜石市のラグビースクールに通う園児 3 名、小学生 24 名、中学生 4 名の合計 31 名であった。小学生を念頭に問題を作成したのであるが、園児や中学生も協力してくれた。園児や小学生低学年に

* 国際文化学科

については、アンケートの回答が困難なので、ラグビースクールのコーチや父母の協力を得、コーチや父母が園児に聞いて、代わりに答えを書き込むという形式をとった。

設問は全部で 8 問。以下のような質問をおこなった。問題は、小学校低学年のことを考え、ひらがなで作成したが、本稿では漢字も加えて表記した。

表 1 ラグビースクールに通っている子どもへの質問

問 1	あなたは、何年生ですか。
問 2	あなたは男の子ですか。女の子ですか。
問 3	何年生からラグビーをはじめていますか。
問 4	家族や親戚でラグビーをしている人はいますか。 (選択式で複数回答可)
問 5	ラグビーを始めたきっかけは何ですか。(選択式で複数回答可)
問 6	ラグビーのかっこいいところと、すてきなところを教えてください。(選択式で複数回答可)
問 7	ラグビーはずっとつづけたいですか。(選択式)
問 8	そのほかラグビーについてなにか書きたいこと。

問 1、問 2 の結果、小学生は、1 年生 1 名、2 年生 4 名、3 年生 4 名、4 年生 6 名、5 年生 4 名、6 年生 5 名であった。また、男子が 26 名、女子が 5 名に回答をもらった。

<問 3：ラグビーの開始学年について>

結果は表 2 のようであった。小学校入学前に開始したというのは、現在園児の 3 名も含んでいる。表 2 をみると多くは小学校入学前か、1 年生、2 年生といった低学年で始めているのがわかる。しかし 3 年生という中学年、5 年生という高学年で始める場合もみられる。

表 2 ラグビー開始時期

小学校入学前	14 名
1 年生	5 名
2 年生	6 名
3 年生	4 名
4 年生	0 名
5 年生	2 名
6 年生	0 名

<問 4：家族や親戚のラグビー体験者について>

家族や親戚といった近親者で誰がラグビーをしているのかをきいたところ、表 3 の結果を得た。

(a)父親

表 3 の父親「17 名+3 名」は、問 5 にラグビーをした動機に父親の影響をあげておきながら、ラグビーをしている者に父親をあげなかった回答が 3 名いたことを表している。つまり、父親がラグビー体験者の子どもは 20 名であ

ると推測される。全 31 名の回答者のなかで 20 名とは、全体の 64.5%が、父親がラグビー体験者だということになる。

(b)祖父

家族や親戚でラグビー経験者が複数いる場合、祖父がしているという回答は 6 名いた。祖父がラグビー体験者の場合、父も自分もラグビーをしていると回答した者は 5 名いた。祖父が体験者だと書いた残り 1 名の回答も、問 5 のラグビーをしていたきっかけとして、父親がしていたことをあげているので、父親を書き落としたと思われる。そうだとすると、祖父の代からラグビーをしている者は、父親、自分と 3 代続けて、ラグビーを継承する傾向にあることがわかる。

表 3 家族・親戚のラグビー体験者¹

父親	17 名+3 名
母親	1 名
兄弟	12 名
姉	1 名
おじ	7 名
祖父	6 名
いとこ (男子)	3 名
祖父と父親	5 名
父親と兄弟	7 名
おじと兄	2 名

(c)キョウダイ

兄弟という言葉と姉妹という言葉では性別が異なるため、兄弟姉妹を合わせた関係を示すとき、ここではカタカナでキョウダイと表記することにする。

31 名中 13 名 (兄弟 12 名、姉 1 名) の者がキョウダイもラグビースクールをしていると答えている。キョウダイがいる場合、キョウダイでラグビースクールに入る傾向があることが示されている。

(d)オジ、イトコ

その他、家族・親戚で複数のものがラグビーをしていると答えた者もいた。その場合の回答に「祖父・父・キョウダイ・オジ」、「祖父・父・オジ、イトコ (男性)」という場合があった。これは、父親も兄弟でラグビーをしていた可能性がある。またオジとイトコがしている場合、父親の兄弟がそれぞれの子どもたちにラグビーをさせている可能性が推測される。

(e)女子

女子でラグビーをしている場合に注目すると 5 名中 5 名が祖父もラグビーをしていたと答えている。また父親についても 4 名がラグビー体験者だと答えており、女子がラグビースクールに参加する場合、家族の影響が大きいことがうかがえる。換言すればラグビー体験者が、自分の孫をラグビースクールに入れる場合、男女にかかわらず入れる傾向があることが推測される。

<問 5 ラグビーをはじめたきっかけ>

ラグビーをはじめたきっかけを子どもたちにきいてみた。11

の回答例のなかから、あてはまるものを全部選んでもらい、3位まで順番をきいた。その結果、「父親がしていたから」という回答を選んだ者は31名中17名であった。ただし、父親がラグビー体験者であっても、父親のラグビー体験を理由にあげなかったものが3名見られた。父親以外の場合は、「友だちがスクールにはいっていたから」父、母、兄、姉以外の「家族がしていた」からを理由にあげていた。また、父親や母親から誘われた場合もみられた。その他、テレビをみてやってみてみたいと思ったという回答もみられた。

<問6：ラグビーのカッコいいところとすてきなところを教えてください。>

これは表4の「選択肢」に書かれた答えを用意し、上位3位まで番号で答えてもらった。またあてはまるものすべてに印をつけて回答してもらった。その結果が表4である。

表4 ラグビーの格好よいところ、すてきなところを教えてくださいという問いに対する選択肢と回答数

選択肢	1位	2位	3位	選択総数
(1)一人は皆のために、皆は一人のためにというところ	8	2	0	12
(2)カッコいいところ	8	4	2	16
(3)走るのが速くなった。	2	3	5	15
(4)身体が強くなった。	1	4	3	17
(5)友だちができた。	2	4	7	20
(6)試合で勝つことが好き	6	5	0	17
(7)先生やコーチが好き	0	0	1	5
(8)父親がしていたスポーツだから好き	2	0	0	6
(9)きついで終わった時にやったとおもうところ	0	2	4	11
(10)すてきなところはない	0	0	0	2
(11)その他自由回答欄				1

表4 選択総数は、順番を書いていなかった回答も含むため、1位2位3位の合計とは異なっている。

1位に選んだ回答で最も多かったのは、(1)と(2)の8名だった。次いで(6)が6名だった。そのほか(3)(5)(8)が各2名、(4)が1名みられた。2位に選んだ回答は(6)が5名、(2)(4)(5)が4名、(3)が3名、(1)(9)が2名だった。3位に選んだ回答は(5)が7名、(3)が5名、(9)が4名、(2)が2名だった。

「選択総数」の欄をみると、最多で選ばれた回答は(5)の「友達ができた」であった。これは1位に選んだ者が2名と多くはないものの、ラグビーの魅力のひとつだと、多くの者が考えていることがわかった。その他(4)身体が強くなった、(6)試合で勝つことが好きを選んだ者が各17名、(2)カッコいいところを選んだ者が16名、(3)走るのが速くなったが15名と続いている。

「すてきなところはない」という回答2名は、すべての番号を選んでいる回答で、その回答中、最下位に選ばれた回答であ

った。つまり、スクールの子どもたちは、ラグビーに魅力を見出さない子どもはいないことがわかった。

<問7：ラグビーはずっと続けたいか>

ラグビーはずっと続けたいかという質問に対し、次の回答を用意した。(1)中学生になってもしたい (2)高校生になってもしたい (3)おとなになってもしたい (4)小学校を卒業したらやめたい (5)今すぐやめたい (6)わからない (7)その他

回答は、中学生になっても続けたいが11名で最も多く、次いで大人になっても続けたいが7名、わからないが5名、高校生になっても続けたいが4名、小学校を卒業したらやめたいが2名、その他、自由記述で中学校を卒業したらやめたいが1名だった。今すぐやめたいという回答はなかった²。

3-2 子どもをラグビースクールに通わせる親への質問結果

子どもをラグビースクールに通わせる／通わせていた親へのアンケート調査に29名の方に協力を得た。全11問である。

表5 子どもをラグビースクールに通わせる親への質問

問1：回答者の年齢を年代で回答
問2：性別
問3：居住地
問4：子どもの人数とスクールにはいっている人数
問5：ラグビースクールにはいった年齢、あるいは学年
問6：家族や親戚にラグビー経験者はいるのかどうか
問7：ラグビースクールにはいったきっかけ
問8：子どものラグビーと家族や親戚のラグビー経験は関係していると考えているかどうか
問9：親のラグビーの試合を子どもがみにいっているのか
問10：ラグビーをはじめ子どもに変化があったか あったとしたらどういう変化か
問11：ラグビーを続けてもらいたいかどうか

問1の回答者の年代は以下のようであった。

(1)20代 1名 (2)30代 11名 (3)40代 12名 (4)50代 4名 (5)その他 70代 1名。つまり、30代から40代がほとんどである。50代、70代はかつて子どもがスクールに通っていたという者や孫が通っている者である。

問2の回答者の性別は、男性12名、女性17名であった。

問3の居住地については(1)ラグビースクールのある甲子町付近15名 (2)釜石市内10名、(3)その他3名で、宮古1名、山田1名との回答であった。

<問4：子どもの人数と、スクールにはいっている／はいっていた子どもの数を教えてください>

子どもの数は1名が7名、2名が12名、3名が9名であった。

スクールにはいっている子どもが2名以上の場合をみても、1名がはいっている者4名、2名ともはいっている／はいってい

たとする者7名、不明1名であった。2人子どもがいて1人がはいているとする者は、下の子がまだはいていない場合と、上の子がはいらずに下の子だけがはいった場合が可能性として考えられる。

3名の子どもの場合、1人がはいているという回答は5名、2名がはいている／はいていたという回答は3名、3名ともはいている／はいていたとする回答は1名であった。この場合も、下の子が小さいのでまだはいらない場合と、はいてもよい年齢であるが入っていない場合とが考えられる。

<問5：ラグビースクールにはいった年齢、あるいは学年>

すべての子どもについて答えてもらった。小学1年生からは9名、2年生3名、3年生4名、4年生2名となった。小学校入学前では3歳からはいった子は2名、4歳7名、5歳11名、6歳3名との回答を得た。

<問6：家族や親戚にラグビー経験者はいるか>

(1)家族にいる 16名 (2)親戚にいる 2名
(3)家族と親戚にいる 4名 (4)いない 7名

ラグビー経験者が、家族にいと答えたものは16名で55.2%であった。家族が親戚、あるいはその両方にいと答えた者は22名で75.9%だった。一方、家族にも親戚にもラグビー経験者がいないと答えたものは7名で、24.1%であった。

次に、家族や親戚の具体的な関係を一番小さな子ども立場から尋ねた。回答は以下のものであった。

祖父：3名（父方1名 母方1名 不明1名）

父親：13名、母親：1名

オジ：10名（父方2名、母方5名 不明3名）

兄：4名、 その他：2名 親戚2名という回答1名と弟という回答1名があった。弟というのは、子どもがキョウダイでスクールにはいている場合と、回答者の弟（子どもからみてオジ）の場合が考えられ、どちらか特定が難しい。

<問7：ラグビースクールにはいったきっかけ>

あてはまるものすべてを選択してもらった。多い順に並べると次のようであった。

1位 「親がすすめた」 11名

2位 「スクール関係者にすすめられた」 9名

3位 「子どもがほりたいといった。」5名

「子どもの友だちがしている／していたから。」5名

「スクールの練習をみにいって入学したいと言い出した。」5名

6位 「近所や知り合いの人にすすめられた」4名

自由記述として、「家族の伝統」だからという答えや、「下の子は兄が入った時に一緒に始めた」というものがあった。またスクール関係者が親の同級生ですすめられたという理由もあげられていた。

第3位の「友だちがしている／していた」が示している場合、友だちの年の差を聞いたが、(a) 同級生が3名、(b) 年上が1

名、(c)年下を選んだ者はいなかった。

回答選択肢には「ちらしやポスターをみて両親が問い合わせた」という選択肢を設けたが、これを選んだ回答者はいなかった。この選択肢は、事前の個別インタビューで県外からの引越して釜石にやってきた人がたまたま子どもを体験入学させていたときに得た回答であったので、今回のアンケート調査でも選択肢の一つに加えた。そうした県外からの転居者に対してはちらしやポスターの効果は認められるものの、そうでない場合は、ちらしやポスターによる効果よりも、他の要因でスクールにはいているのが認められた。

また、インタビュー調査により、親戚のオジやいとこがラグビーをしている場合が認められたので、「親戚の人にすすめられた」という選択肢をもうけたが、これを理由にラグビースクールにはいったとする回答はなかった。

<問8：子どもがスクールにはいりたいといったきっかけに家族や親戚のラグビー経験は関係していると考えているか>

回答選択肢は4つでそれにその他として自由記述で書いてもらった。これを複数回答可で回答してもらった。

1位「親のラグビー経験が影響している」15名であった。そのうち「以前ラグビーをしていた者」は3名、「現役でラグビーをしている者」は6名であった。

2位「家族や親戚にラグビー経験者がいない」7名

3位「兄や姉といったキョウダイのラグビー経験が影響していると考えている者」5名 キョウダイは以前していたと答えた者1名、現役でしていると答えた者1名であった。

4位「家族のラグビー経験は、子どものラグビーとは関係がない」と考えている者も3名みられた。

その他を選んだ者は4名で、うち2名は自由記述があった。「家族や親戚の影響が多少ある」「近所の先輩の影響」との回答であった。この回答より、家族や親戚でラグビーをしている場合、親やキョウダイの影響が大きいと考えている者が多いことがわかった。

家族や親戚のラグビー経験と子どもがスクールにはいていることは関係がないと考える者は、ラグビー経験者が家族や親戚にいないとする者2名と、親が以前ラグビーをしていたが、現在はしていないから、と考える者が1名であった。つまり、家族や親戚にラグビー経験者がいて、特に現役でしている場合は、子どものラグビーに影響があると考えられていることがわかった。

<問9：親のラグビーの試合を子どもがみにいっているのか>

親がラグビーをしていないという回答が7名あった。そのほかについては、「子どもを試合につれていったことはない」と「数回つれていったことがある／あった」が各5名、「いつも」「よく」「ときどき」連れて行った／連れて行っているというのが各3名であった。

子どもを連れて行く親と行かない親が分かれるようである。

＜問 10：ラグビーをはじめて子どもに変化があったか＞

「あった」という回答が 25 名で、「なかった」という回答はなかった。どのような変化があったのか選択肢を複数回答可で選んでもらった。結果の多いものから示すと以下のようであった。

- 1 位 体力が増加した。 21 名
- 2 位 友だちが増えた。 14 名
- 3 位 精神的にたくましくなった 13 名
- 4 位 足がはやくなった。 9 名
- 5 位 忍耐力がついた。 8 名
- 6 位 責任感がでてきた。 6 名
- 7 位 他人への思いやりが増えた。 4 名
- 8 位 生活の時間管理ができるようになった。 1 名

＜問 11：ラグビーを続けてもらいたいかな＞

「続けてもらいたい」が 17 名、「子どもの自主性にまかせる」が 8 名、「やめてもらいたい」「今はあまり考えていない」はいなかった。

次に「続けてもらいたい」という答えを選択した人にいつまで続けてもらいたいのかを尋ねた。

- 1 位 「ずっとつづけてほしい」 8 名
- 2 位 「とくにいつまでとは考えていない」 5 名
- 3 位 「高校でも続けてほしい」 2 名
- 4 位 「中学生になっても続けてほしい」 2 名

これらの結果から、具体的に高校までとか中学生になってもというより、ずっと続けてほしい、いつまでとは考えていないが続けてほしいと漠然と続けてほしいと考えている場合が多いことがわかる。

3-3 ラグビー体験をした中学生への質問結果

表 6 ラグビー体験をした中学生への質問

問 1：学年
問 2：性別
問 3：ラグビー開始時期
問 4：家族や親戚のラグビー体験者
問 5：ラグビーをはじめてきっかけ
問 6：ラグビーが素敵だと思うところ
問 7：ラグビーをずっとしたいかどうか
問 8：ラグビー以外のスポーツは何をしているのか。
問 9：ラグビーと他のスポーツの好きの程度（数値回答）
問 10：ラグビーをしてよかったと思った程度（数値回答）
問 11：ラグビーについて何か書きたいこと

釜石市内の K 中学校に臨時でつくられるラグビー部でラグビーを経験した生徒のうち 15 名から回答を得た。質問は、3-1 のラグビースクールのこどもたちへの質問をベースに K 中学校のラグビー部の特性を考慮した質問を作

成した。全部で 10 問。表 6 に示した。

問 1 の学年は中学 3 年生が 13 名、2 年生が 2 名だった。

問 2 の性別は、15 名全員が男性であった。

問 3 のラグビー開始時期は、小学生が 2 名、中学 2 年が 2 名、中学 3 年が 10 名、中学とのみ書いた回答が 1 名あった。

＜問 4：家族や親戚のラグビー体験者＞

15 名中、11 名が、家族や親戚でラグビーをしている者がいないと答えている。兄といった者が 2 名、妹が 1 名、いとこ（男性）が 1 名だった。

＜問 5：ラグビーをはじめてきっかけ＞

ラグビーをはじめてきっかけを 3 番まで選んでもらった。選択された回答のみを示すと以下のようであった。

表 7 ラグビーをはじめてきっかけ

きっかけ	1 位	2 位	3 位	合計
友だちがしていたから	6 名		1 名	7 名
ラグビーをみてみたいと思った	3 名	6 名		9 名
兄がしていたから	2 名			2 名
かっこいいから	1 名		2 名	3 名
学校で皆がするから	1 名	1 名	1 名	3 名
学校の先生から誘われた	1 名		1 名	2 名
学校でするようにいわれたから	1 名			1 名

1 位に挙げた理由で最も多いのが、「友だちがしていたから」で、2 位の理由で最も多いのが「ラグビーをみて自分もしたいと思った」であった。合計では、「ラグビーをみてみたいと思った」生徒が、「友だちがしていたから」を上回っている。

＜問 6：ラグビーが素敵だと思うところ＞

表 8 ラグビーが素敵だとおもうところ

選択肢	1 位	2 位	3 位	選択総数
(1)一人は皆のために、皆は一人のためにというところ	4	2	1	8
(2)かっこいいところ	1	2	0	3
(3)走るのが速くなった。	1	0	0	2
(4)身体が強くなった。	2	2	1	9
(5)友だちができた。	0	0	1	1
(6)試合で勝つことが好き	0	0	0	0
(7)先生やコーチが好き	0	0	1	1
(8)父親がしていたスポーツだから好き	0	0	0	0
(9)きついで終わった時にやったーとおもうところ	2	0	3	8
(10)すてきなところはない	0	0	0	0
(11)その他自由回答欄				3

複数回答可で答えてもらった結果が表8である。回答は番号順位を書いていない者もあったので、選択総数は1位2位3位の合計ではない。

「父親がしていたスポーツだから好き」「試合で勝つことが好き」を選んだ生徒がいなかった。また「友だちができた」も1名しかなかった。これはラグビースクールの子どもたちとの相違が大きくみられる部分である。

選択した者が多かったのは次の3つである。「身体が強くなった」を選んだ者が9名、きつけれど終わった時の充実感を選んだ者が8名、また「ひとはみんなのために、みんなはひとりのために」というところを選んだ者が8名いた。最後の選択肢については自由記述欄に「みんなで助け合いながらやるのでとても楽しい」と書いた者がみられたところにも表れている。

その他の自由記述欄に、「タックルが楽しい」と書いた者が2名いた。

<問7：ラグビーをずっと続けたいか>

「わからない」が最多で7名。「高校でしたい」が5名、「中学生の間はしたい」が1名、その他が2名だった。その他の選択肢には「大学でしたい」「おとなになってもしたい」「もうしたくない」があったが、これらを選んだ者はいなかった。

<問8：ラグビー以外のスポーツは何をしているのか>

野球が2名、サッカーが6名(そのうち3名が学外でと回答)、バスケットボールが2名(そのうち1名が学内でと回答)、卓球が2名、空手が3名だった。2つのスポーツを書いた者が2名、印をつけなかったものが2名いた。

<問9：ラグビーと他のスポーツの好きの程度>

ラグビーがとても好きな場合を10に、他のスポーツがとても好きな場合を0として、線上の数字に×をつけてもらった。両方同じくらい好きな場合は5に×がつく。

ラグビーが大好きを表す10を選んだ者3名、9が1名、6が1名だった。他のスポーツが大好きという0はいなかった。つまりラグビーがまったく好きではないを表す0を選んだ者はいなかったが、1は3名いた。2、3、4は各1人、どちらも同じくらい好きを表す5は3名だった。

<問10：ラグビーをしてよかったと思った程度>

これも「よかった」が10、「わるかった」は0でどのくらいよかったのかわるかったのかを数値で表してもらった。

「とてもよかった」を表す10が12人、8が2人、6が1人であった。

問9、問10から、スポーツとしてはラグビー以外におこなっているスポーツが好きだと思う生徒は1が3名2、3、4、が各1名という結果であったが、ラグビーをしてよかったと感じた生徒は多く、10を選んだ者が12名みられた。

ラグビーをおこなったことを好ましく思う傾向は問11の自

由記述にもみられた。この問いではラグビーについて何か書きたいことがあったら教えてもらいたいと聞いたところ、「ラグビーは楽しい」とか「面白い」と書いた者が4名、「ラグビー大好きです」が1名、「助け合いのスポーツは自分の精神を鍛えることができた」とする者が1名みられた。

これらの回答から、普段は他のクラブでスポーツなどをしていいる生徒が、ラグビーを経験して、よかったと感じている者が多かったことがわかる。

4 おわりに

以上の回答結果をとおして、ラグビースクールに通う子どもたちは、家族や親戚でラグビーをしている者が多い傾向があり、その影響を受けやすい環境にあることがわかった。また家族がラグビーをしていない者でも、臨時に作られるラグビー部などでラグビーを経験し、よかったと思う者が多いことがわかった。

私たちは、オリンピックが近くなると、親が活躍したスポーツで子ども同じスポーツに挑戦している姿を、メディアなどを通じてしばしば目にする。今回のアンケート調査で、釜石のラグビーにもこうした傾向がうかがわれることがわかった。すなわち家族で親から子へと受け継がれていること、また3世代くらい受け継がれている家では特に男女にかかわらず、ラグビーをさせる傾向があることもわかった。

本稿では、もっぱらアンケート調査報告をおこなったが、詳しい分析は、別の機会に考察したい。

【注】

¹ 表中には、父親、母親、祖父などと書いたが、アンケート用紙では「お父さん」、「お母さん」、「おじいさん」などと一般的な話し言葉を選択してもらった。

² 回答に番号をいれた回答が4枚あった。1位に書かれたもので集計した。

【参考文献】

原英子 2014「岩手県のラグビー(1)岩手県のラグビーの歴史的動向」(『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』16)

【謝辞】

本研究は、釜石シーウェイブスRFCの大畑勇様、ラグビースクールのコーチの皆様、桜庭吉彦様、ご父兄の皆様、釜石市役所の増田久士様、岩手県ラグビー協会の沢口明平様、釜石シーウェイブスRFCジュニアの子どもたち、釜石市内の中学校の生徒さんなどいろいろな方にご教示やご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

また本稿は岩手県立大学地域政策研究センター平成24年度後期地域協働研究(地域提案型)「釜石におけるスポーツイベントへむけたラグビー民俗誌の作成」(研究代表者 原英子 釜石シーウェイブスRFCとの共同研究)の研究成果の一部を使用しております。